

四十七義士を祀る大石神社

現代に継ぐ日本人の心と祭祀

塩田と忠臣蔵の地

赤穂は「塩と義士」を抜いては語れない地である。この二つの歴史的な存在により、瀬戸内海にある長閑な町が、今も全国に知られている。とりわけ義士は、浄瑠璃、歌舞伎にはじまり、小説、映画、テレビドラマへ、忠臣蔵という永遠のドラマとして受け継がれている。

赤穂市上飯屋地区には、『忠臣蔵』の主役で忠義を負って命を果てた四十七士を祀る大石神社がある。そこには、大石内蔵助の生き方や人柄を偲び、年間多くの人々が足



大石神社の飯尾義明宮司

を運ぶ。『忠臣蔵』の物語が広く世間に知れると共に、温厚で人望の篤く、人情家でもあった大石の人柄も人々の心に深くなじんだのだ。ここ赤穂には、三百年前の忠義の精神をもった武士たちの思い、そしてそれを今に伝える人々の追慕がある。

大石神社の四代目宮司飯尾義明さんは、義士の志を守りつつ、地域交流に取り組みとともに、三代目から引き継いだ赤穂義士の文献や文書の解明にも積極的協力している。大石内蔵助という人物がここまで人々を魅了する理由と、そして地域全体を巻き込んだ新しい祭事を提案し貢献する意義をうかがった。

大石神社で語り次ぐ物語

大石神社の名前は、四十六名の家臣を率いた赤穂藩浅野家老の大石内蔵助良雄に由来する。大石神社では、四十七義士の他、中折の烈士萱野三平を加えて主神と



大石内蔵助良雄像

し、浅野長直・長友・長矩の三代城主と、その後の藩主森家の武将七代を合祀している。

大石神社は、一九〇〇（明治三十三年）年に社号をもち神社創立したことに始まり、一九二二（大正元）年、主神の鎮座、そして一九二八（昭和三）年に無格社から県社に昇格した。

そもそも忠臣蔵の物語で核となる事件、「元禄赤穂事件」の後、彼らは幕府に背いた罪人として扱われていたが、明治元年の明治天皇行幸の際、義士墓前に勅旨を遣わしご嘉賞されたことを機に、彼らを祀る神社創立が叶ったのである。討ち入りからおよそ二百年後にして、幕府の逆臣という立場か



「仮名手本忠臣蔵十一段目豊国」より

ら、祭神として祀られるに至った。大石神社は義士を尊崇する人々に、「東の楠公さん、西の大石さん」と親しまれている。飯尾宮司は、「やはり忠臣蔵のドラマ性、そして忠義の精神が日本人の心に響くのでしょね。ストーリーの展開が分かっていても、涙を誘われる人も多いようですから」と語る。

今年で大石神社は主神の鎮座九十五年目。数世紀を超えてさまざまに語り継がれた義士達の物語は色あせず人々を魅了し続けているようだ。

心に響く忠義の精神

なぜこれほどまでに義士たちの物語が日本人に受けるのだろうか。

「元禄赤穂事件」は良く知られているように、一七〇一（元禄十四）年、江戸城中松の廊下で、赤穂藩主浅野内匠頭長矩が高家筆頭吉良上野介義央に刃傷に及び、將軍綱吉の命をもって長矩は即日切腹、浅野家は取り潰し、一方の義央には何の咎めもなかったことに端を発する。それから一年十ヵ月後、大石内蔵助良雄を筆頭とする四十七名の家臣が、吉良家に討ち入り、義央の首をとって仇を討ち、



大石邸長屋門

この長屋門を含む大石内蔵助邸址は、国の史蹟の指定を受けている

義士たちは切腹という劇的な終焉を迎えるまでが事件である。

この事件は、徳川幕府開府百年の安定した時代に一石を投じる事件として、世間では義士達の忠義を称える波紋が広がっていった。そして討ち入りの四十七年後に人形浄瑠璃で事件が上演されてからは歌舞伎にも移され、以来浮世絵の題材としても人気を博し、江戸文化の中で一世を風靡した。そして物語が現代に受け継がれながら、彼らの忠義の精神は日本人の心に強く響き続けてきた。現在では、戯曲や映画、ドラマ、小説、そしてオペラとの融合など色々なジャンルで事件が語られ、様々な層の人々に愛されている。



大石神社の境内

2002年、義士討ち入り満300年境内整備事業において、社殿を一新した

楠の木が見守った歴史

大石神社の義士宝物殿には、身の義士たちの姿を伝える手紙や文書などが数多く保存されている。また大石神社は、旧大石邸を含む三千七百坪で、赤穂城三の丸にあり、さまざまに語られるストーリーとは違った感動に触れることができる。

その一つで、当時大石家の人々が朝夕に出入りしたであろう大石邸長屋門は当時の姿のまま現存する唯一の遺構である。そして長屋門をくぐると大石が愛した意匠をこらした泉池庭園が広がる。そこには瓢箪の形をした池があり、そのまわりには春になると大石が好んで愛でたぼたんが咲き乱れるという。そしてその中には、樹齢三五〇年の楠の大木が悠然と立っている。その木は義士たちがかけた動乱の時代の、大石の姿を知る生き証人であるう、と飯尾宮司は語る。

「楠の木は、江戸城での事件の凶報を伝える早かこの到着や、緊張した面持ちで登城しようとする大石の様子を見ていたでしょう。そして、お家取り潰しとなった武士達の葛藤や板ばさみの思いも受け止めてきたことでしょう。そし



樹齢350年の楠の木

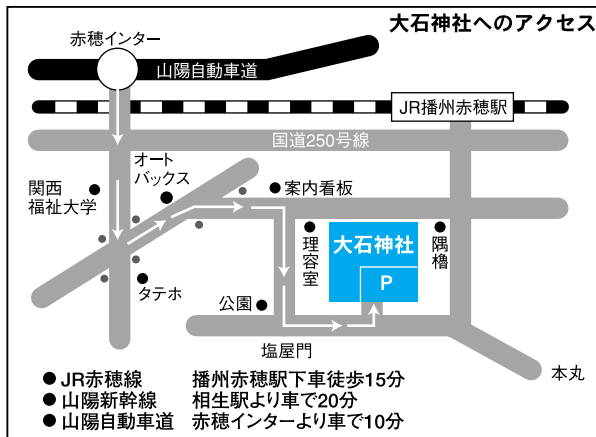
て今まで赤穂の歴史を静かに見守ってきました。この楠の木は大石の思いを受け継いだかのように今もしっかりと根付いています」。

討ち入り決行までの一年十ヵ月、浪人となった浅野家家臣の武士たちは厳しい人生の選択に迫られた。今私たちが目にする『忠臣蔵』は彼らの一人ひとりの真の物語抜きでは完成しない。だからこそ、僅か二年に満たない事件が、三百年以上経った二十一世紀の現代にも人々を魅了し続けるのだから。

新しい活動と創造

神社創立後も、瞬く間に赤穂義士達の忠義の精神は公に日本中に広まっていった。今や全国各地で忠臣蔵の史跡を辿ることができるよう。そのネットワークづくりも大石神社の役割である。

もっと広い層に忠臣蔵を知ってもらいたいと、大石神社では地域



また、古文書の発見にとまなう読解からは、忠臣蔵の新たな一面を発見するのにつながるという、積極的に協力を惜しまない。飯尾

ぐるみの新しい祭事に取り組んでいる。飯尾宮司は、「ただ、忠臣蔵の地だとふんぞり返っているだけではいけません。歴史の味わい方を皆さんに分かってもらうために、さまざまに趣向を凝らして皆が楽しめる祭事にするため、時代にあわせて工夫を凝らしていくことが使命だと感じています」という。今では、地域の若い人々に芸を継承するため獅子舞の保存会を結成し、春の祭典で催しをするなど、地域ぐるみで活動を先導している。

2007年 No.27
マグネシア・ミュー

編集・発行

マグネシア リサーチ センター

〒105-0013 東京都港区浜松町1-9-10 ビリーヴA浜松町

TEL 03-5472-6675

FAX 03-5472-0261

(本誌記事等の無断転載・複写を禁じます)

「この東西は兵庫県の中の位置を示し、「東の楠公さん」は楠木正成を祀る湊川神社（神戸市中央区）を指している。」

宮司は本来の姿の忠臣蔵をより多くの人たちに理解してもらうため、そして彼らの残した生身のメッセージを読み解く作業が続いている。

毎年12月14日は、義士たちが討ち入りを果たした日として、現代に生きる人々は彼らを慕い、例年義士追慕大祭を行う。今年もこのパレードは義士行列を中心に赤穂市をあげて盛大に行われた。精神を一つに目的を成し遂げた義士の御霊を祀ることで、今に生きる人々の絆を結んでいる。

Oishi Shrine where the 47 Loyal Ako Ronin are enshrined Reveling the heart and rituals of Japanese which remain up to today

the 47 Loyal Ronin

Ako is famous nationwide as a place which cannot be spoken about without mention of salt the 47 loyal Ako Samurai who lost their leader, becoming leaderless samurai known as ronin. Tales of the 47 loyal ronin began in Joruri, a traditional form of Japanese puppet show, and Kabuki, a traditional form of Japanese play in which only male actors perform, and they continue today to capture the hearts of people in novels and movies.

In Ako, Kamikariya located Oishi Shrine where the 47 loyal ronin are enshrined who ended their lives in the Ako Incident which occurred in 1703, and became the subject of "Chushingura," the Treasure of the 47 Loyal Ronin. The shrine honors Kuranosuke Oishi, the leader of the 47 loyal ronin, with about a million people visiting the shrine annually. The 4th generation priest of Oishi Shrine, Yoshiaki Iio, along with being involved in various activities on a local level, has also greatly assisted in the clarification of those documents which remain. Priest Iio noted, "The spirit of their loyalty resounds in the hearts of the Japanese. Even though they know how the story is going to develop, there are still lots of people who are induced to tears when it is repeated before them."

The tale which is the topic at Oishi Shrine

The incident occurred in the corridors of Edo Castle, in Tokyo in 1701. Naganori Asano, lord of the Ako fief, stabbed Yoshihisa Kira with a sword. By order of the Shogun, Yoshitsuna, Lord Asano committed ritual suicide on the following day, as the drawing of a sword on the grounds of Edo Castle was forbidden. This resulted in the ruin of the Asano Clan. Yoshihisa incurred no blame at all for the incident and this led to the start of the tale. For a year and 10 months, the 47 loyal Asano Ronin, led by Kuranosuke Oishi, waited patiently for an opportunity to take revenge, leading a dissolute life style to hide their intentions. They then broke into the Kira residence, and took their revenge by beheading Yoshihisa. In a dramatic end to the incident all of the 47 ronin, as atonement for their deed, committed ritual suicide. The Military Government of Japan treated them as criminals, but the common people praised them for their complete loyalty to their dead master, portraying them on stage and in a type of stylized Japanese painting called Ukiyoe (the Floating World).

Out of this populist movement, Oishi Shrine was founded in 1900.

New activity and creativity

Reverend Iio is involved in a new ritual offering a flavor of history to let the Treasure of the Loyal Samurai be known by a broadly. Several years ago he formed an association to preserve the Lion Dance, to transmit this art to the younger generation. He continues to decipher the messages left by the Ako Ronin, and is increasing an interchange which goes beyond the various generations. With the thought of the spirit as one, it continues to be handed down since the time of the